

令和6年度 小国町立小国中学校 教育計画（案）

1 学校教育目標

白い森の国おぐにを愛し、たくましく・しなやかに生き抜く力を身につけた、心豊かな小国人の育成

2 めざす生徒像

人間力を身につけ 小国町を元気にする小国中生

- 1 確かな学力を身につけ、自ら課題解決にあたる生徒
- 2 豊かな心を持ち、互いを認め合って成長する生徒
- 3 心身ともに健康で、たくましく・しなやかな生徒
- 4 郷土を愛し、郷土を元気にしようと努力する生徒

3 めざす学校像

あいさつ・合唱・ボランティアで感動をよぶ学校 小国中学校

- 1 明るいあいさつと歌声が響く学校
- 2 思いやりの行き交ういじめのない学校
- 3 安全で安心のあるきれいな学校
- 4 家庭・地域から信頼される開かれた学校

4 めざす教師像

子どもと共に成長し 信頼される小国中教師

- 1 実践的教育力を常に高めようと努力する教師
- 2 常に子どもと感動を共感・共有できる教師
- 3 家庭・地域と連携を図り、期待にこたえる教師
- 4 教育公務員としての自覚に基づいて行動する教師

5 学校経営方針

(1) 社会に開かれた教育課程の推進を図り、これまでの教育活動を一層充実させながら、地域とともにある学校をめざす。

- ① コミュニティ・スクールの趣旨を生かし、学校経営に保護者や地域の意見を反映させるとともに、職員のコミュニティ・スクールに関する理解を深め、地域と協働する取り組みを進める。
- ② 学校運営協議会委員による広報活動や学校だより等の活用を図るとともに、小国町合同学校運営協議会と連携して、コミュニティ・スクールについての理解と学校パートナーの拡充に努める。
- ③ コミュニティ・スクールの推進と地域学校協働活動を一体的に進め、協働本部（白い森子ども応援隊）との連携を図りながら特色ある学校づくりを行う。
- ④ 学校評価等を活用し、家庭や地域からの声を積極的に聞き入れ、常に課題意識をもって教育活動の改善に努める。

(2) 「保小中高一貫教育」のさらなる充実をめざし、連携した教育活動を展開する。

- ① 第6次山形県教育振興計画、小国町保小中高一貫教育の方針に則って学校運営を推進する。
- ② 小中の連携を大切にし、小国小学校との情報交換を密にしながら効果的な教育活動を推進する。(小学生への中学校教師による授業、児童会・生徒会合同活動、合唱や運動会の交流活動の推進、連携会議等)
- ③ 小国高等学校との新たな連携のあり方を協議し、日常の情報交換を大切にするとともに特別支援教育の視点から教師がともに研修を深めるなどして、生徒一人一人の個性を伸ばす教育を推進する。
- ④ 保育園から高校までの切れ目ない特別支援教育をめざし、小国小学校と小国高等学校との接続を大切にしたい個に応じた指導を継続する。

(3) 「個別最適な学びと協働的な学びの融合」「自尊感情とコミュニケーション能力の向上」「心身ともに健康な体の育成」を図り、知徳体のバランスがとれた教育を推進する。

- ① ICTの活用を図りながら、より高い目標をもって課題解決に努めようとする主体的・協働的な生徒を育成し、学力と学習意欲の向上を図る。
- ② 自己決定、自己有用感、受容的・共感的な人間関係づくり等の生徒指導の機能を重視し、生徒との適切なコミュニケーションを大切にしながら、生徒の幸せな居場所づくり・絆づくりに努める。
- ③ 活動のねらいや意義についての理解と見通しをもたせる指導、振りかえりと成果の確認を重視し、理解と納得を伴った生徒主体の取り組みを進める。
- ④ 事故防止と危機回避を何よりも優先するように心がけて、安全・安心な学校づくりを進めるとともに、教科体育や部活動指導を通して粘り強さとたくましさを育成する。

(4) 教育活動全体に「いのちの教育」を浸透させ、いじめ、不登校の未然防止と特別支援教育の充実を図る。

- ① 「学校いじめ防止基本方針」や「小国中学校生徒憲章」の理解を図り、安全・安心・安定した校内生活及び校外生活を送ろうとする意識を高める。
- ② 生徒一人ひとりの障がいや気質、家庭環境などを適切に理解し、特別支援教育の視点を大切にしたい教育活動を推進するとともに、保護者との共通理解と関係機関との連携を重視した個別指導を充実させる。
- ③ 多様性を受け止め、一人ひとりの自尊感情を醸成して共感的な集団づくりに努めるとともに、男女混合名簿の活用や校則の見直しにとどまらないジェンダー平等の意識を高める。

6 学校経営の重点と具体策

重点1:個別最適な学びと協働的な学びの融合を図り、確かな学力と学習意欲の向上に努める

(1) 学校研究を中核とした教科指導の充実とICT教育の推進

- ① 教科、領域、その他の活動との関連を模索し、地域の人的、物的資源の活用に努めながら、授業改善を図る。また、各教科での言語活動の充実を図り、表現力や活用力を育成する。
- ② 生徒の興味や意欲を引き出し、自ら課題を設定して主体的・対話的に学ぶ探究型授業をめざして、きめ細かな単元及び本時の指導計画を立案する。また、学習の振り返りを大切にして、学びの実感と次の学習への課題意識を形成するようにする。
- ③ 学校研究を中核として、個別最適な学びと協働的な学びを融合させた授業を行うとともに、ICT教育の充実を図り、確かな学力を育成する。
- ④ 全国学力・学習状況調査と教研式標準学力検査の結果を踏まえ、日常の学習指導の改善を図る。

【授業改善のための共通実践項目】

- 一時間の授業や単元を通して付けたい力を明確にし、授業で本時の課題（めあて）を板書する。
- 発問の仕方を吟味し、インプット3割・アウトプット7割の授業をめざす。
- 授業全体（課題解決）の見通しをもたせるとともに、授業の流れがわかる板書をする。
- 授業のまとめと振り返りの活動を大切にし、学びを積み上げる。
- 授業の予習や復習の場として、質量ともに充実した家庭学習の習慣化を図る。

(2) 学年・学級での学業指導の充実

- ① 各学年の発達段階に合わせた学業指導（学ぶ姿勢、学ぶ意義、家庭学習の進め方 等）を行う。特に効果的な自主学習・家庭学習の進め方を生徒とともに考え、学習内容の質と量の充実を図る。
- ② 学年自治会を機能させ、生徒が自主的に取り組む活動を仕組むなどして、意識の高揚を図る。
- ③ 全校生で「チャイム学習（次の授業の学習をしてチャイムが鳴るのを待つ）」ができることを目標とし、自ら学ぶ生徒の育成に努める。
- ④ 白い森学習支援センターの事業を自発的な学びの場としての位置づけ、センター主催の学習会や個別講座等への参加を奨励する。

(3) 読書活動とキャリア教育の推進

- ① 50分間読書の充実、読書活動パートナーや読育推進司書との協働により、心を耕す読育の活性化を図る。
- ② 生徒会活動等との関連を図って積極的に本の紹介を行い、読書に対する意欲を高め、習慣化に結びつける。
- ③ 3年間の系統性・継続性を考慮して総合的な学習の時間（白い森学習）を計画し、ねらいや意義を明確にした探究型の学習を推進する。
- ④ キャリア・スタート・ウィーク等の体験学習やキャリア・パスポートの活用を通してキャリア教育の充実を図る。

重点2：受容的・共感的な人間関係づくりとコミュニケーション能力の育成を図る

(1) 豊かな人間関係とコミュニケーション能力を育成する場の設定

- ① 「コミュニケーションはあいさつから」と捉え、生徒会3本柱の1つとして、年間を通して「あいさつ」の大切さについて考えさせ、生徒のアイデアを生かしたあいさつ運動を展開していく。
- ② 構成的グループエンカウンターの手法を取り入れるとともに、スクールカウンセラーによる面談や研修会、道徳や学級活動などの授業を通して、しなやかな人間関係づくりに取り組む。
- ③ 生徒に対して「さん」付けて呼名することを心がけ、一人一人の人権を守り、一人の対等な人間として接するように努める。

(2) 特別の教科「道徳」の実践

- ① 「特別の教科 道徳」の時間を大事にし、学年や学校全体で道徳の授業を見合うなどして、生徒の心に迫る道徳教育を推進していく。
- ② 道徳の授業で認め励ます評価をして、周りから認められる体験を積みませ、自尊感情の育成を図る。

(3) 豊かな関わり合いができる体験活動の実施

- ① 運動会、修学旅行、文化祭、白い森学習等の感動体験を通して、主体性や協調性を育成し、人間力を育てる。
- ② 清掃やボランティア活動を縦割り班や部活動単位で行うことで、異年齢の仲間との交流を深める。
- ③ 地域学校協働本部（白い森子ども応援隊）と連携し、学校パートナーとの交流や地域活動を推進することで、年代を超えた地域住民との関わり合いを深める。

(4) 自治活動の活性化と受容的・共感的な集団づくりの推進

- ① 生徒会活動と自治会活動の充実に努め、生徒会活動の3本柱「あいさつ」「合唱」「ボランティア」活動の進化・発展を図って「小国を元気にする小国中生」の意識を醸成する。
- ② 構成的グループエンカウンターやQU アンケートに基づく「サポートグループ法」などを活用し、受容的で共感的な集団づくりに努める。
- ③ 「小国中学校生徒憲章」の趣旨を生かした生徒会活動を推進し、規範意識の醸成、自浄作用のある集団作りを推進する。
- ④ 部活動を通してつきたい力として、「あいさつ」「返事」などの共通実践項目を設定し、リーダーを中心に校内外でめざす行動ができる部活動集団を育成する。

重点3:たくましく・しなやかに生き抜く、健康な生徒を育てる

(1) 安全な学校環境づくりと自らの命を守る教育の充実

- ① 学校安全計画に基づいた計画的な事故防止の取り組みと安全教育を実施し、危機予知能力と危機回避能力を育成する。また、毎年10月25日を「小国中学校安全の日」に設定し、危険な場所や行動について生徒自らが振り返り、安全に対する意識を高める機会とする。
- ② 学校だよりや安全だよりなどによる啓発活動や、校内の安全点検等を通して、「自分の命は自分で守る」という意識の向上を図る。
- ③ 小国小学校や保護者との連絡を密にしながら、食中毒・食物アレルギー・異物混入の絶無を図る。

(2) 健康教育の充実

- ① 健康診断後の再検査や治療を積極的に進め、疾病の早期治癒に努める。
- ② 食育全体計画に基づいた食育指導の充実を図り、食と農に関する関心を高める。

(3) 年間を通したQトレ(クォータートレーニング)の実施

- ① 週4回の清掃の時間(15分間)に、学年ごとに体力トレーニングを行う「Qトレ」を実施し、体力の向上を図る。
- ② Qトレの成果を発表する場として記録会を実施し、一人一人の伸びを確認できるようにする。

(4) 感染症拡大防止対策の徹底

- ① 手指消毒や換気などの基本事項を徹底する。
- ② 山形県教育委員会や西置賜地区中学校体育連盟のガイドラインを遵守して、部活動における他校との交流を進める。
- ③ 正しい知識を身につけ、偏見や差別を生まない指導を心がける。

重点4:小国町や地域を愛し、元気にしようと努力する態度を育てる

(1) 生徒会活動や部活動による町の活性化

- ① 日常の「あいさつ・合唱・ボランティア」活動を通して、町や地域の方に元気な小国中学生の姿を披露する場を設ける。
- ② 大会での活躍を広報したり、町の行事等で部活動の成果を披露したりすることで、町民に元気を与える。
- ③ 休日のスポーツ・文化活動の指導を地域のスポーツクラブ等に依頼し、より専門的な指導を受けることで技術の向上を図るとともに、地域の子どもは地域で育てるという機運を醸成する。

(2) 白い森学習(地域学習)の充実と町や地域の行事等への積極的な参加の奨励

- ① 「総合的な学習の時間全体計画」を基に3年間を見通した学習を進め、町や地域について知り、自分たちができることを考えて行動に移させることで、町や地域の活性化につなげていくようにする。
- ② 町や地域の行事、学習支援センター主催の夏休み地域体験講座などに積極的に参加するように呼びかけ、町の中心部だけでなく周辺部の方とのふれ合いも大切にする。

(3) 学校パートナーとの協働活動の推進

- ① 「環境パートナー」「読書活動パートナー」「畑パートナー」をはじめとする協働活動に関わる地域の方との交流を深め、地域の方を知るとともに、小国中学校の様子を地域の方に知ってもらう企画をする。
- ② コミュニティ・スクールの強みを生かし、学校運営協議会との連携を強化しながら、地域住民の声を生かした学校教育活動を推進する。

7 今日の課題に対する学校としての取り組み

(1) 特別支援学級の適正な運営

- ① 進路を意識した特別支援学級のカリキュラムを作成し、通常学級との交流を図りながら、カリキュラムに沿った指導を展開する。
- ② 特別支援学級在籍生徒の多様性に対応し、個に応じた生活と学習の場づくりを進めていく。

(2) 適正な部活動の運営

- ① 運動部活動基本方針に基づいた適正な部活動運営について継続して検討していくとともに、生徒の放課後の過ごし方を考慮しながら部活動の任意加入制を導入する。
- ② 定期的なコーチ・保護者会長会の実施と必要に応じた個別の連絡・面談を通して、部活動運営についての共通理解と体罰・いきすぎた指導等の防止を徹底する。
- ③ 競技団体、スポーツ少年団、地域スポーツクラブ、各文化団体等との連携、部活動指導員の活用などを通して、地域住民による休日のスポーツ・文化活動の指導を推進していく。

(3) 「学校の働き方改革」の推進

- ① 週日課の工夫、朝の活動や清掃時間の削減等により、部活動の開始時刻・終了時刻を早めることで放課後の時間にゆとりをもたせる。
- ② 学校行事等の日程や時数、余剰時数などを見直し、年間授業日数と授業時数の削減を図る。
- ③ 家庭訪問や教育相談を通して生徒の実態を把握し、保護者との連携を深めることで、その後の問題行動の未然防止と早期発見・早期解決を図り、生徒指導に要する時間の短縮をめざす。